

岡山赤十字病院 心臓血管外科 はーと通信

平成 30 年 7 月

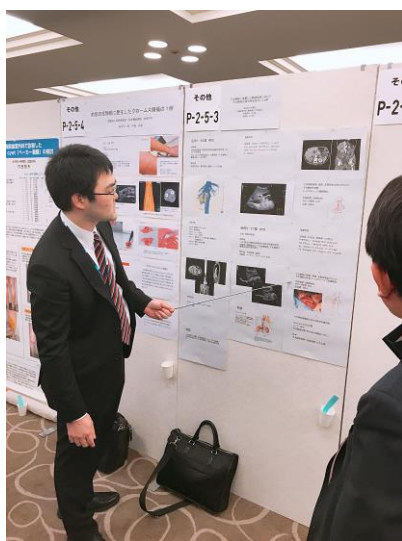
第38回日本静脈学会
総会にて発表

2018 年 6 月 14 (木)～15 日(金)に横須賀市で開催された第38回日本静脈学会総会にて中西、藤本、中村の3人が発表。中村の演題が優秀演題に選ばれました。現在、論文執筆中です。

下大静脈穿破を伴った腹部大動脈瘤破裂の 1 例 中西浩之

症例は 83 歳男性。1週間前から両下肢腫脹あり、徐々に増悪。呼吸困難も出現したため当院内科紹介。緊急入院。ハンプ等心不全加療開始。精査にて腹部大動脈瘤一下大静脈穿破の診断にて当科紹介。両側アクセス不良にて左側AUIとし、右総腸骨動脈をコイリング、人工血管にてF-Fバイパスを行った。術後経過は良好で術後16日目に退院。若干の文献的考察を加えて報告した。

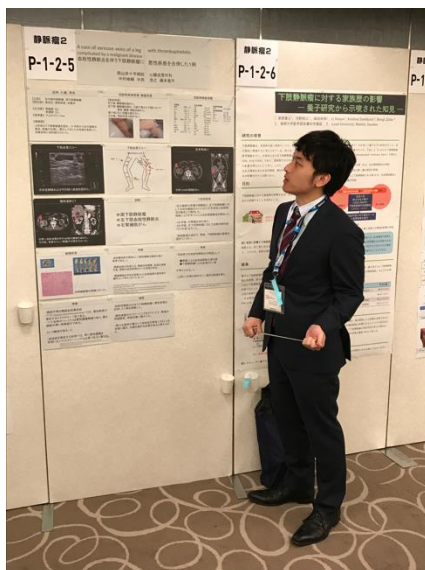
下大静脈に進展した腎細胞癌に対して下大静脈合併切除施行した 2 例 藤本竜平



最近の 1 年間に経験した下大静脈に進展した腎細胞癌に対して、下大静脈合併切除施行した 2 例を経験したので報告する。1 例目は 83 歳男性。右腎細胞癌 cT3bN0M0 にて、右腎静脈から下大静脈にかけて腫瘍栓を認めた。腫瘍を確認しながら静脈壁を切離。4-0 非吸収糸で連続縫合閉鎖した。術後

特に大きな合併症なく、術後 19 日目に退院した。2 例目は 57 歳女性。右腎細胞癌 cT3aN0M0 にて、右腎静脈から下大静脈にかけて腫瘍栓あり。腫瘍を確認しながら静脈壁を切離し、5-0 非吸収糸で連続縫合閉鎖した。術後大きな合併症なく、術後 8 日目に退院した。腎細胞癌の 3~10% においては下大静脈に腫瘍栓を形成すると言われているが、その外科的治療においては泌尿器科、心臓血管外科、外科等の連携が必要不可欠である。

血栓性静脈炎を併う下肢静脈瘤に悪性疾患を合併した1例 中村峻輔



今回、血栓性静脈炎を合併した下肢静脈瘤に対して悪性疾患スクリーニングを行い腎癌を発見した症例を経験したので報告した。症例;81 歳男性。主訴;左大腿内側部痛、両下肢静脈瘤。既往歴;高血圧、高脂血症、虫垂炎。現病歴;10 年前より下肢静脈瘤を認め、1 か月ほど前から左大腿部の発赤、疼痛出現し、近医受診。加療目的にて当科紹介。両下肢静脈瘤及び左下肢の血栓性静脈炎を認めた。血管エコーでは両側の大伏在静脈の逆流及び左大伏在静脈内(大腿下部から下腿)に血栓を認めた。悪性疾患のスクリーニング目的に全身単純 CT を行った。右腎に 5cm の腫瘍を認めた。造影 CT にて腎細胞癌が疑われた。左大腿部の疼痛持続したため、左下肢静脈瘤に対して大伏在静脈のストリッピング手術及び血栓除去を優先して施行した。3 か月後、右腎摘出術を施行。病理所見は、淡明細胞型腎細胞癌の診断であった。3 か月後、右下肢静脈瘤に対して血管内焼灼術(ラジオ波)を行った。術後経過は良好で、現在のところ腎癌の再発は認めていない。血栓性静脈炎を併う下肢静脈瘤に悪性疾患を合併した一例を経験した。血栓性静脈炎を合併した下肢静脈瘤は悪性疾患が合併していることを念頭に全身のスクリーニングを行う必要もあると考えられた。

岡山赤十字病院

〒700-8607

岡山市北区青江二丁目 1 番 1 号

心臓血管外科 中西浩之

TEL:086-222-8811

FAX:086-222-8841